

## 地学クラブのお知らせ

地学クラブ講演会（6月、7月）の予定が決まりましたのでお知らせします。講演終了後、講師を囲んで懇談の場も用意しています。多数のご来場をお待ちしています。

### 記

・平成21年6月19日（金）14：00～15：30

「国連大陸棚問題の最近事情」

玉木賢策（東京大学大学院工学系研究科教授）

（要旨）

国連海洋法条約に基づく、各国の大陸棚延伸申請がこの5月12日に締め切られ、総計76の大陸棚延伸申請が提出された。大陸棚延伸申請は、海底の地形・地質条件により200海里経済水域を越えて沿岸国の海底資源開発にかかわる主権の及ぶ領域を拡張できるもので、これにより世界の海底の地図が塗りかえられることになる。日本は、昨年11月に膨大な海底調査データを添えて、国連に申請書を提出した。一方、中国、韓国も東シナ海において、この5月に国連に大陸棚延伸暫定申請をし、東シナ海の経済水域境界を中間線とする見方と相容れない主張を行っている。未開発海底資源の多くが眠る北極海、南極海海域においても関連国の大陸棚延伸申請がなされ、関心と呼んでいる。本講演では、以上のような状況をわかりやすく解説し、関連したさまざまな問題を紹介する。

・平成21年7月21日（火）14：00～15：30

「付加体の形成の意義と今後の展望—水平テクトニクスと重力の役割—」

小川勇二郎（筑波大学名誉教授）

（要旨）

近年の多方面からの精力的な研究により、付加体の認定、メカニズムとプロセスなどについては、ほぼ確定された認識に至っている。実験的にも再現可能な現象と認められている。付加体に関しての最大の問題の一つであった、流体移動に関してもほぼ解明された。特に、海溝堆積物の存在が最も重要な鍵を握っていることとして、世界中の実例が解き明かされた。南海トラフについても、その大半で詳細な発達史が編めるようになった。しかし、付加体の発展の後にどのようなことが起きるのか、付加体は継続的に成長するのか、付加体類似の構造は何を意味するのか、付加体形成における重力の役割はどうか、などに関しては、依然として謎である。今回は、これらの諸問題の展望を最近明らかにされた実例をもとに考察する。